
好きだよ.....そしてバイバイ

惟央

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

好きだよ……そしてバイバイ

【Nコード】

N1194D

【作者名】

惟央

【あらすじ】

最後の高校生活。最高の思い出を作って卒業をするつもりだった。最高の友達と作る最高の思い出。しかし、俺は気付いていなかったんだ。あの子に心を寄せている事を……。そして、告白をしようとした時……。

PROLOGUE

【Prologue】

あんな生意気で

うるさくて

だけど、笑顔が可愛くて

やっぱり泣き顔は見たくない

そんな彼女が好きだった 俺は着慣れた制服に身を包み
鏡の前に立っていた。

今日から高校最後の一年間。俺はちよつと寂しさを覚えながら家
を出た。

「行つて来る」

「行つてらっしゃい」

母親がそう言うのがドアが閉まる瞬間に聞こえた。俺はそれを聞いてから歩きだすと、

「竜ーッ!!」

俺は声がした方を向く。すると、同じ学校の制服を着た少女が駆け寄ってきた。

「おはよッ!! 竜」

「朝っぱらから女っぽく出来ないのかよ」

俺は苦笑しながら言った。すると、少女は案の定、頬をふくらませて怒った。

「うっさいなあー。竜は挨拶も出来ないの？」

「はいはい。希穂【キホ】、おはよー」

俺はそう投げやりな感じで言うと学校に遅れるため歩き出した。

「ちょ、竜。待つてよー」

「学校に遅れる気ーないから待たないー」

「ひどッ！」

希穂はそう言いながらも俺の隣まで走って来た。そして、キーホルダーやマスケットがジャラジャラついたスクールバックで俺の背中を思いっきり叩いた。

「いつてッ!!」

「希穂ちゃんを待たない罰だぁー!!」

希穂はキャハハと笑っている。

「んだと、てめえ!!」

「きゃー逃げろーッ!!」

俺と希穂は朝っぱらから追いかけてこをしながら学校に行った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1194d/>

好きだよ.....そしてバイバイ

2010年11月7日08時02分発行